

総合教育臨床センターだより

2022年1月 第7号

総合教育臨床センター講座

「コロナ禍におけるオンライン相談のあり方」報告

2021年9月11日(土) (10時~12時)、総合教育臨床センター講座がオンラインにより開催されました。コロナ禍の収束の見通しが立たない中、

- ◆ 高階光梨氏 (医療法人緑樹会 やまうちクリニック カウンセラー)
- ◆ 長谷川智広氏 (京都市教育委員会教育相談総合センター カウンセリングセンター長)
- ◆ 森孝宏氏 (京都教育大学 保健管理センター教授)



の3名より、対面以外の方法での心理相談についてのお話をいただきました。

高階氏は、コロナ禍以前から遠隔心理支援についての研究をされており、遠隔心理支援は感染症流行下でなくても、「近くに専門家がない」「移動コストの削減」などの点で利点がある、というお話から始まりました。遠隔心理支援実践の統合モデル (McCord et al、2020) の要素のうち、「管理スキル」「倫理と法律」「テクニカルスキル」を中心に遠隔心理支援における注意点等を挙げられました。相手の置かれている状況 (プライベートな環境かどうか、未成年の場合、保護者はどこにいるか、など) をチェックする必要があること、ラポール形成のためにできること (バーチャル背景を使わない、時間を短めにする、など)、対象や分野によっては対面に劣らないとするエビデンスがあること、などが紹介されました。

長谷川氏からは、京都市で行われてきた、SNS (LINE) を活用した相談事業についての報告がありました。中学生の登録が多く、相談内容としては、友人関係 (26.6%)、学業・進路関係 (22.2%) が多い。そして、新型コロナ関連はそれほど多くない (4.2%) とのことでした。SNS 相談のポイントとして、少ない言語情報を最大限に活用すること、会話のペースを相手に合わせながら保つこと、誤解されないようにはっきりとした言葉を使うこと、質問を有効に活用すること、匿名性を大切にすること、の5点が挙げられました。

森氏からは、新入生に対するオンライン心理面談の経験やさまざまな研究報告の結果をもとに、各種ツールの特徴や現状等の紹介がありました。コロナ禍での対面相談の特徴として、咳払いやマスクの種類が陰性転移につながりうること、マスクによって表情が読めないこと、逆に空間を共有できることなどが挙げられました。電話相談には半世紀以上の歴史があり、オンラインよりも親密感が得られること、オンラインでは表情は読めるが、空間は共有できず、突然の遮断が起こりうること、メールでは十分な表現が難しく、SNSでは同時性があり、子どもは使用に慣れている、というようなことが紹介されました。これらのツールを用いての相談は、今後、否応なしに実施する必要があり、さまざまな現場から学ぶ必要性がある、ということが共有されました。

お知らせ

教育臨床心理実践拠点では、スクールカウンセラー養成に長年関わってこられた内田利広先生をお迎えし、2月12日（土）に公開講演会「不登校支援とスクールカウンセラー」をオンラインにて開催予定です。お申込みはHPにてご確認ください。

附属学校スクールカウンセラーより

—附属桃山中学校・附属特別支援学校—



平成23年4月より附属桃山地区を（附属桃山中学校を中心に）担当しています。平成26年までは附属桃山小学校・幼稚園も、令和元年までは附属高校も担当していました。令和2年より附属桃山中学校と特別支援学校のための担当となり、勤務を開始して11年余りの年月が流れました。当時幼稚園児だった方が中学校を卒業される年となります。

この10年余りで痛感することは、不安の症状を呈する子どもの数が増えたことです。発達特性のある子どもが、なんとか環境に適応しようとがんばってきて、息切れして不登校になることもあれば、習い事や塾でがんばりつくしてエネルギー切れを起こしてしまうこともあります。無理に登校させるなど対応を誤ると、それが頭痛・腹痛・吐き気・のどの違和感として症状化することもあります。医療機関で調べてもらおうと、起立性調節障害の診断が出たり、自律神経が乱れていると言われます。

そこでスクールカウンセラー（SC）は何ができるかと考えた時に、お薬以外のアプローチで症状を軽くできたり、感情の自己調整ができたり、セルフケアをして回復する力をつけてあげることが大切だと思ようになりました。SCは週1回（月1回）しか来ないので、教員や養護教諭のように、しんどい時、つらい時にすぐに会えるわけではありません。ですが、思い出しても身がすくむようなつらい体験や恥ずかしかった体験、混乱した体験が引き起こしている症状の意味を理解し、様々な手法を駆使して、家庭や学校の力を使って子どもを回復させていくことができると気がつきました。回復に1年かかっていた子供が学期や行事で仲間のもとへ帰っていくことも増えました。このように学校の力を借りながらSC活動に取り組んでいます。

（附属桃山中学校・附属特別支援学校 岩瀬佳代子）

附属学校園の心理相談に関するお知らせ

附属学校園の幼児・児童・生徒およびその保護者の方を対象に、個人・家族・学校などの悩みや困った問題について心理的援助を行っています。お気軽にご連絡ください。

相談申し込み方法

予約制となっておりますので、あらかじめ電話でお申し込みください。

電話番号 075-644-8354

（月曜～金曜午前10時～午後3時 ※午後0時30分～1時15分除く）

※祝祭日、8/10～8/20、12/28～1/3は除く。

※新規お申し込みは火曜・水曜・金曜のみ受付を行います。

- ※ 「発達相談」と共通の受付電話番号となっておりますので、最初に「**心理相談を希望**」とお伝えください。
- ※ 「心理相談」は京都教育大学附属学校園の関係者以外のご相談はお受けできませんのでご了承ください。

教育臨床心理実践拠点・スタッフ

兼任教員 教授：森 孝宏

准教授：西村 佐彩子



特別支援教育臨床実践拠点の取り組みについて

特別支援教育臨床実践拠点では、今年度2回のオンライン形式による特別支援教育セミナーを開催しました。

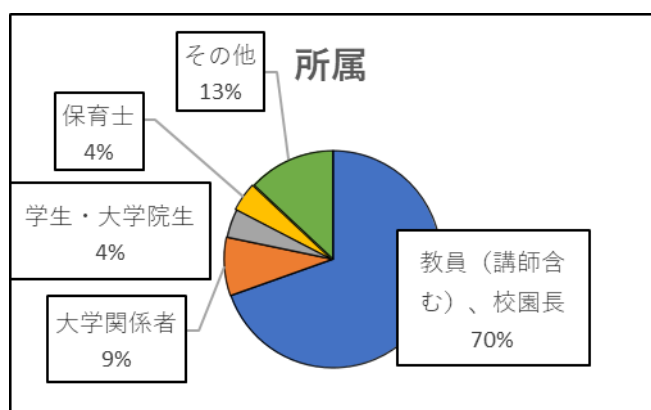
第1回 特別支援教育セミナーについて

10月9日（土）の第1回目のセミナーでは、霜田浩信先生（群馬大学 教授）に「適応行動の獲得とセルフ・マネジメント」という演題でご講義いただきました。

・参加者について

京都府・市、近隣県や遠方の県より、31名が受講されました。

表 アンケート回答者の所属



所属	人数
教員（講師含む）、校園長	16
大学関係者	2
学生・大学院生	1
保育士	1
その他	3
計	23

図 アンケート回答者の所属、n=23

◆ 特別支援教育セミナーの内容

霜田先生には、応用行動分析学（ABA）の観点から、日常生活における適応行動をどのように支援し、子ども自らが適応的行動の獲得に向けた行動をいかに定着させていくかという技法について、基礎的な知識から実践まで詳しくお話いただきました。

参加された方からは、

- ・ 具体的なお話で大変わかりやすく教えていただきました。こちらが環境を整えて、子どもたちがセルフ・マネジメントできるようになることを目指して、これからの指導に生かしていきたいと改めて感じています。
- ・ 今回のセミナーで学んだことを、担任の先生方だけでなく、ぜひ困っておられる保護者の方々にもお知らせしたいと思いました。何となくの感覚だけでなく、きちんとした理論があると訴えやすいです。

などのご意見・ご感想をいただきました。

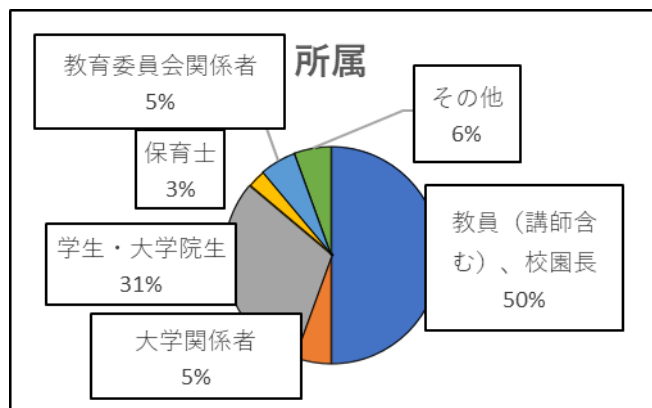
第2回 特別支援教育セミナーについて

12月4日（土）の第2回目のセミナーでは、藤野博先生（東京学芸大学 教授）に「ことばの発達障害ーコミュニケーションと語用に難しさのある子どもの理解と対応ー」という演題でご講義いただきました。

・参加者について

京都府・市、近隣県や遠方の県より、56名が受講されました。

表 アンケートの回答者の所属



所属	人数
教員（講師含む）、校園長	18
大学関係者	2
学生・大学院生	11
保育士	1
教育委員会関係者	2
その他	2
計	36

図 アンケート回答者の所属、n=36

◆ 特別支援教育セミナーの内容

藤野先生には、発達障害の概論に始まり、相手との円滑なコミュニケーションの背景にある理論について解説いただき、ASD 児への具体的な支援プログラム（ソーシャルスキルズ・トレーニング【SST】やテーブルトーク・ロールプレイング・ゲーム【TRPG】）等の新たな試みもご紹介いただきました。

参加者の方からは、

- ・ ASD 児童への SST に活用できる内容が、とても参考になりました。
- ・ 明日すぐに使える情報がたくさんで、特に趣味トークや TRPG のお話は ASD の子たちにとって学校に来たり人と関わったりすることが楽しくなり、かつコミュニケーションの学びにもつながる大変ありがたい内容でした

などのご意見・ご感想をいただきました。

- オンライン講座については、「移動時間がないので、参加しやすい」との多くの意見をいただきました。一方で「やはり実際に対面でお話を聞きたい」とのご意見もあり、セミナーの開催形式については今後も検討していきたいと思えます。

発達相談のお申込み方法

子どもの発達・教育相談を行っています。

発達相談に関しましては、あらかじめ電話でお申込みいただいております。

電話番号 075-644-8354 月曜～金曜午前 10 時～午後 3 時

(※祝祭日、午後 0 時 30 分～1 時 15 分除く)

お知らせ

総合教育臨床センター（特別支援教育臨床実践拠点）の改修工事が完了いたしました。通常の体制になりましたので、ご報告いたします。今後ともよろしく願いいたします。

特別支援教育臨床実践拠点・スタッフ

専任教員（センター長）教授：相澤雅文

兼任教員 准教授：田爪宏二（教育学科）

准教授：牛山道雄、佐藤美幸、丸山啓史（以上 発達障害学科）

相談補佐員：松中修子（月・木）、福井めぐみ（火・水・金）

